

【授業の到達目標および概要】

授業のテーマ及び到達目標：

多くの健康課題が複雑に交錯する現代社会において、公教育の最前線に位置づく学校現場は、子どもの教育機能を担う場所であるとともに、福祉機能を担う場所でもある。本授業では、子どもの置かれた社会環境を理解し、学校が地域において果たす福祉的役割について説明できるようになることを目標とする。また、対象者である子どもの理解、家庭の理解を深めるとともに、教育職・福祉職の職種をこえた連携、多機関の協働のあり方を理論的・実践的に学修し、自らが学校福祉の担い手となることも、目標のひとつに据える。このことはディプロマ・ポリシーが掲げる「高度な職業人としての必要な能力」を修得することと関連している。

授業の概要：

はじめに現代の学校が抱える福祉課題について体験的に理解を深める。次いで、学校福祉に関する文献を講読し、その歴史、理念、近年の動向等を理論的に学ぶ。その後、地域の社会福祉協議会と交流しながら、学校福祉のプログラムに実践的に関与する。その一連の過程を観察記録にまとめレポートを作成する。以上を通じて学校福祉の現状と課題を考察する。

【授業計画】 <英語併用可>

①学校福祉とは何か

現場体験や映像視聴を通じて、学校福祉のリアリティを把握する。

キーワード：学校福祉、教育福祉、地域社会

②学校とソーシャルワーク

学校の福祉的機能およびスクールソーシャルワーカーの役割について認識する。

キーワード：スクールソーシャルワーカー（SSW）、福祉教育、地域活動実践

③子どもと学校福祉

文献講読を通じ、近代社会における子ども観の変遷を考察する。子どもを社会的存在として捉え、学校教育は何を果たすべきかを考える。

キーワード：子ども観、社会的存在としての子ども、受けとめ

④家族と学校福祉

文献講読を通じ、家族の生物学的必要と社会学的必要を論じる。社会構造の変容により家族の形態はどのように変化し、養育行動がいかなるものとなったかを考察する。

キーワード：近代家族、家族の形態、養育

⑤教員と学校福祉

文献講読を通じ、現代の学校教員の特性を考察する。子どもたちの生きづらさは大人たちの生きづらさに通じていることを踏まえ、大人の生きづらさをときほぐす。

キーワード：学校教員、学校文化、ケア文化

⑥青年期と学校福祉

文献講読を通じ、青年期の子どもの特徴と学校および地域の福祉的役割を考察する。

キーワード：青年期、若者支援、ユースワーク

⑦～⑫学校福祉の実践

地域の社会福祉協議会と協働して、実際の学校福祉のプログラムを検討する。

キーワード：社会福祉協議会、小地域福祉活動、ボランティア活動

⑬⑭学校福祉の考察

本授業を通じて学修したことをレポートにまとめ、学校福祉の現状と課題を考察する。

キーワード：ソーシャルワーク、多職種連携、多機関との協働

【授業外学習】

文献の講読を行うので、受講者は事前に指定された文献を読み込み、レジュメを作成する。授業では、そのレジュメにもとづいてディスカッションを行う。また、社会福祉協議会との

協働を予定しており、学外・授業時間外で実践的な活動に関与する。

【成績評価の方法・基準】

授業への参加態度（60%）、レポート（40%）

【教科書】

鈴木庸裕編『学校福祉とは何か』（ミネルヴァ書房、2018年）。事前購入のこと。

【参考書】

随時紹介する。

【教材】

随時配布する。

【備考】

特になし